

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

① 体育科学研究科コーチング学専攻への入学意思についての調査結果

(1) 博士前期課程

本専攻博士前期課程の入学定員者数は12名に設定している。定員充足の見込み及び定員数の設定にあたり、コーチ学研究室所属教員の担当科目の平成28年度の履修者、体育学部3、4年生及び体育科学専攻博士前期課程コーチング学系1、2年生、コーチ学研究室教員の学外関係者（社会人）を対象とし、本専攻への入学意思等に関するアンケートを実施した。

その結果、「条件が整えば、修士課程で学んでみたいと思う」と回答したのは、全体の回答者187名中50名（26.7%）であり、体育学部4年生においては回答者91名中19名（20.8%）、設置年度の入学者にあたる体育学部3年生においては、回答者73名中13名（17.8%）であった。

なお、全体の回答者187名中138名（73.7%）が「コーチングを研究する専攻（修士）が必要だと思う」と回答した。

これらの結果から本専攻博士前期課程の設置の要望及び入学意思を備えていることがうかがえ、定員充足を見込むことが出来ると判断する。資料1、2、3

(2) 博士後期課程

本専攻博士後期課程の入学定員者数は3名に設定している。定員充足の見込み及び定員数の設定にあたり、上記のアンケートを実施した。

その結果、「条件が整えば本専攻（博士）で学んでみたいと思う」と回答したのは、全体の回答者187名中41名（21.9%）であり、体育科学専攻博士前期課程2年生においては、回答者8名中5名（62.5%）、設置年度の入学者にあたる体育科学専攻博士前期課程1年生においては回答者8名中4名（50.0%）であった。

なお、全体の回答者187名中102名（54.5%）が「コーチングを研究する専攻（博士）が必要だと思う」と回答した。

これらの結果から本専攻博士後期課程の設置の要望及び入学意思を備えていることがうかがえ、定員充足を見込むことが出来ると判断する。資料1、2、3

② 既設の体育科学専攻コーチング学系の入学状況

本専攻は既設の体育科学専攻コーチング学系（前期課程）を発展させて専攻として設置することとなるが、当学系の過去6年間の入試データを集計すると、安定して入学者を確保していて、過去6年間の入学者数を平均するとコーチング学系（前期課程）は13.6名、また志願者数は平均20.1人となるため、長期的な定員充足を見込むことが出来、併せて、本専攻博士前期課程の定員数は妥当だと判断出来る。資料4

③基礎となる学部の定員充足の状況

本専攻の基礎となる学部である体育学部の過去5年間の入試データを集計すると、過去5年間安定して定員を充足していることから、長期的な定員充足を見込むことが出来ると判断する。資料5

④近隣の競合校の状況

近隣のコーチング学分野の専攻を持つ競合校の状況を参考に挙げると、筑波大学人間総合科学研究科コーチング学専攻は、過去5年間安定して入学者を確保し、過去5年間の定員超過率の平均は1.4倍、また、定員6人対して過去5年間の志願者数の平均が12.6人となっていてコーチング学分野の要望の高さがうかがえ、入学者を安定して確保することが見込めると判断できる。また、本学のコーチング学専攻は東京都世田谷区にあるキャンパスで授業を展開することとなり、立地条件の面でも優れているため、入学者の確保がより見込めると期待できる。資料6

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

① 体育科学研究科コーチング学専攻への入学意思についての調査結果

a. 調査の概要

体育科学研究科コーチング学専攻設置に関わるアンケートを以下の通り実施した。

◆調査対象

本学コーチ学研究室に所属する教員の担当科目の履修者体育学部3、4年生及び体育科学専攻前期課程コーチング学系1、2年生、コーチ学研究室教員の学外関係者（社会人）を対象とした。

体育学部3年生	73名
体育学部4年生	91名
体育科学専攻前期課程1年生	8名
体育科学専攻前期課程2年生	8名
社会人	7名
合計	187名

◆調査方法

担当教員の授業時に「資料1」のとおり、研究科・専攻名称、開設時期、立地場所、学費、設置の理念、養成する人物像を説明の上、Webアンケート（選択肢式）を行った。

◆調査時期

平成28年11月下旬～12月上旬

◆調査内容

「資料2」のとおり選択肢式計14問の質問を行った。

b. 調査結果の概要

調査結果を「資料3」のとおり集計した。調査結果の概要については下記のとおりである。

◆調査結果の概要

(1) 博士前期課程の必要性

全体の回答者187名中138名（73.7%）が「コーチングを研究する専攻（修士）が必要だと思う」と回答した。

(2) 博士後期課程の必要性

全体の回答者187名中102（54.5%）が「コーチングを研究する専攻（博士）が必要だと思う」と回答した。

(3) 博士前期課程への進学意思

「条件が整えば、修士課程で学んでみたいと思う」と回答したのは、全体の回答者187名中50名（26.7%）であり、4年生においては回答者91名中19名（20.8%）、設置年度の入学者にあたる3年生においては、回答者73名中13名（17.8%）であった。

(4) 博士後期課程への進学意思

「条件が整えば本専攻（博士）で学んでみたいと思う」と回答したのは、全体の回答者187名中41名（21.9%）であり、体育科学専攻前期課程2年生においては回答者8名中5名（62.5%）、設置年度の入学者にあたる体育科学専攻前期課程1年生においては回答者8名中4名（50.0%）であった。

(5) 学ぶ目的

体育科学専攻前期課程及び後期課程に進学意思のある回答者104名に対して、進学目的を聞いたところ、「修士の学位取得」40名（38%）、「博士の学士取得」33名（32%）、「能力向上」86名（83%）、キャリア形成37名（36%）、ネットワーク作り32名（31%）の回答を得た。

※回答は複数可

(6) 希望の通学時間帯

希望する通学の時間帯について、回答当者171名中、「平日昼間」123名（72%）、「平日夜間」29名（17%）、週末昼間10名（6%）、週末夜間9名（5%）の回答を得た。

② 既設の体育科学専攻コーチング学系の入学状況

資料4「体育科学専攻博士前期課程入学試験結果平成23年度～平成28年度」を参照
本学体育科学研究科体育科学専攻コーチング学系（前期課程）の過去6年間（平成22年度～28年度）の入学状況を表にした。

③ 基礎となる学部の定員充足の状況

資料5「日本体育大学体育学部入試状況」を参照
本学体育学部の過去6年間（平成22年度～28年度）の入試状況を表にした。

④ 近隣の競合校の状況

資料6「コーチング分野の専攻を持つ研究科の入学者数状況」を参照
本専攻と同分野である筑波大学人間総合科学研究科コーチング学専攻の設置場所及び過去5年間（平成24年度～28年度）の定員数及び志願者数、合格者数、入学者数の推移を表にした。

ウ 学生納付金の設定の考え方

日本私立大学振興・共済事業団のデータをまとめた「私立大学等の平成26(2014)年度入学者に係る学納金等調査」(文部科学省ホームページより)によると初年度学生納付金(授業料、入学料、施設設備費の合計)については、博士後期課程の平均額(1人当たり)は873,363円である。また、同系専攻を設置する近隣の大学の学生納付金を参考とし、併せて本専攻は既設の体育科学専攻コーチング学系（前期課程）及び教育・コーチング学系（後期課程）を発展させた専攻であることをふまえ、体育科学専攻と同様の金額を設定することが妥当であると考え、以下の通り学生納付金を決定した。資料7

入 学 金：300,000円
授 業 料：738,000円
健康管理費：10,000円

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

① インターネット等を利用した広報活動の展開

本学の教育・研究活動、クラブ活動、地域・社会貢献活動等に関する情報を広く社会に発信できるようホームページが開設されている。また、受験生や本学卒業生とのコミュニケーションツールのひとつとして、フェイスブックなどのいわゆるSNSを通じたリアルタイムでの情報提供にも努めている。また最近のスマートフォンの普及にあわせ、本学の最新情報を配信する専用のアプリケーションを整備している。

②専攻所属教員による進学相談の実施

コーチング学専攻を担当する専任教員のオフィスアワーを利用し、大学院進学希望者の個別進学相談を実施し、学生募集体制を強化する。

③学生納付金の減免制度

本学卒業生については、入学金(30万円)の半額を免除する。

その他、各種の公的な奨学金制度の活用を奨励する。

2. 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

コーチング学専攻は文部科学副大臣の下に設置された「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」の報告書並びに、これまでの本学が蓄積してきた研究から見えてきた課題を飛躍的に解決するための研究拠点としての役割を担うことを目指し、人材の養成及び教育研究上の目的を下記のとおりとする。

1) 「スポーツ・フォー・トゥモロー」のレガシーを後世に伝える

本学は文部科学省から委託されたスポーツ・アカデミー形成支援事業の「国際スポーツ人材育成拠点の構築」に関わり、「NSSU Coach Developer Academy(コーチ育成者養成アカデミー)」の運営を行い、国内外から受講者を募りコーチデベロッパーを養成するといったプログラムを展開している。本専攻はこの事業を通じて構築しつつあるコーチ育成メソッドを2020年東京オリンピック・パラリンピックで終わらせるのではなく、このレガシーを恒常的に提供していくことを目的としている。

2) 「反体罰・反暴力宣言」を推進する方法の提供

本学は、社会的に問題となっている体罰問題に対し、「反体罰・反暴力宣言」をし、体罰についての現状把握や体罰撲滅のための提案、研修会等を実施しているが、本専攻は、この体罰問題の解決、そして本学の「反体罰・反暴力宣言」を推進するため、科学的な体育・スポーツ指導の理論と方法に裏打ちされた実践力と知識を兼ねそろえた人材を養成することも設置の目的としている。

3) 新しい時代にふさわしいコーチング学の確立およびコーチの育成

「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議(タスクフォース)」報告書の提言を踏まえて設置された「コーチング推進コンソーシアム」により「モデル・コア・カリキュラム」の作成事業が行われているが、このカリキュラムを効果的に実施するための指導者が必要不可欠であり、また日本独自の「モデル・コア・カリキュラム」の検証は、定期的に行っていかなければならず、さらにコーチングの開発についても研究を進めていく必要があるため、本専攻がその役割を担う。

4) ディプロマポリシー

日本体育大学大学院体育科学研究科コーチング学専攻は、本学の理念と教育目標に基づき、コーチング学に関する高度の学術研究により、その深奥をきわめ、学術の応用に貢献して体育及びスポーツ指導に関する研究を推進するとともに、最新のコーチング実践の検証を行うことのできる高度な研究能力と新しいコーチング学の研究開発を担うことのできる人材の育成を目標とし、コーチング学の進展と体育・スポーツの面から世界平和に貢献することを目的とする。

本専攻の課程を修了して学位が授与されるためには、以下のことが求められる。

1. 博士前期課程にあつては、所定の年限以上在学し、本学の教育・研究の理念と目的に沿って設定した授業科目の単位を修得する。さらに、修士論文の審査及び試験に合格すること。
2. 博士前期課程にあつては、広い視野に立ち精深な学識を備え、コーチング学分野における高度な専門的かつ実践的能力とコーチデベロッパーとしての基礎的能力を身につけること。
3. 博士後期課程にあつては、所定の年限以上在学し、本学の教育・研究の理念と目的に沿って設定した授業科目の単位を取得する。さらに、博士論文の審査及び試験に合格すること。
4. 博士後期課程にあつては、コーチング学分野の研究者として自立して研究活動の遂行ができるとともに、豊かな学識に裏打ちされたコーチデベロッパーとしての能力を身につけること。

5) 博士前期課程及び博士後期課程で育成する能力

博士前期課程

博士前期課程（修士）では、コーチとしての指導ができると共に、コーチデベロッパーとしての資質と能力を備えた人材の育成を図る。また、コーチング学を発展させていくために基礎となる体育・スポーツ科学の諸領域における知識の習得と研究能力の養成を行う。

そこで高度な実践力を備えたコーチの育成にあたっては、かつてドナルト・A・ショーンが理論的枠組みを提示した「行為の中の省察」が非常に重要であり、どのように振り返りながら自分自身を見直していくのかといった、「省察的实践者」という立場を身に着けるトレーニングを行うことが重要なる。そのためにはコーチに必要とされる様々な専門的な知識をどのように取り込んで利用するのか、さらには自分自身が持っている知識に対抗する知識（新しい知識）を受け入れると共に、その真偽を判断して的確に活用できるといった能力が必要となってくる。なお、コーチの役割を高いレベルで発揮できるとされる能力については、以下の資料8に示すとおりであるが、このような形での知識と教養を身に着けさせることで、質の高いコーチの育成が可能となる。

また、上述したコーチの育成に加えて、コーチング学的发展に不可欠な研究の推進、さらに研究領域の開発が可能になる学問的基盤を形成する。

以上の点を踏まえて、博士前期課程では以下のような人材の育成を図る。

1. トップアスリートのコーチングができる人材の育成
2. 中学校、高等学校の運動部の指導のできる人材の育成
3. スポーツクラブ等で指導のできる人材の育成
4. JICA などの国際援助協力において、海外でスポーツ指導のできる人材の育成
5. スポーツ指導者たちを対象にしてコーチ養成カリキュラム（例：「モデル・コア・カリキュラム」）等を指導できる人材の育成

博士後期課程

博士後期課程においては、博士前期課程で培ってきたコーチデベロッパーとしての基礎的能力（ファシリテーション、アセスメント、プログラムデザイン、メンタリング、自己開発等）をさらに向上させるとともに、博士論文の作成を通してコーチング学の研究を発展させ、新しいコーチング法などを開発し実践できる人材の育成を図る。そのために博士後期課程のカリキュラムにおいては、コーチングに関する研究を進めていくために基礎となる研究領域を配置し、コーチングをより高度に研究するための専門的かつ高度な研究法を習得させるための科目が配置されている。

以上を踏まえて、博士後期課程では以下のような人材育成を図る。

1. 大学等の研究機関においてコーチング学の教育研究に携わる人材の育成
2. 国内外において、高度なスポーツ指導ならびにコーチ育成（コーチデベロッパー）ができる人材の育成

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向を踏まえたものであることの客観的な根拠

平成 23（2011）年 8 月 24 日から施行された「スポーツ基本法」には、その前文において我が国が「スポーツ立国の実現を目指し、国家戦略として、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する」と記されている。スポーツ基本法の制定を受けて、中央教育審議会は平成 24（2012）年 3 月 21 日に「スポーツ基本計画の策定について」答申を上げており、そこでは今後 10 年間を通じたスポーツ推進の基本方針が示されたうえで、最初の 5 年間に達成すべき目標について具体的記述がされている。ここでは 7 つの取り組むべき施策が示されており、なかでも「1. 学校と地域における子どもスポーツ機会の充実」「2. 若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」「3. 住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」「4. 国際競技力の向上に向けた人材の育成やスポーツ環境の整備」「7. スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」といった施策を下支えし、これらの推進に大きな力となってきたのは、体育・スポーツの指導に携わってきた人々であった。また、「5. オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」「6. ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性・公平・公正性の向上」についても、その中の一部は体育・スポーツの指導者が深く関わるものである。

平成 25 (2013) 年 9 月 7 日の 2020 年の東京オリンピックが開催されることになった国際オリンピック委員会 (IOC) 総会でのプレゼンテーションにおいて安倍晋三内閣総理大臣は「スポーツ・フォー・トゥモロー」構想を紹介し、我が国が本格的にスポーツによる国際貢献に取り組むことを表明した。このことによって、スポーツ・フォー・トゥモローのプログラムが具体的に走り出し、「スポーツを通じた国際協力及び交流」「国際スポーツ人材育成拠点の構築」「国際的なアンチドーピング推進体制の強化支援」「スポーツ振興の前提となる途上国の青少年の育成を草の根レベルで支援」を柱として、平成 26 (2014) 年から平成 32 (2020) 年まで開発途上国をはじめとする 100 か国以上の国において、1000 万人以上を対象とするプログラムとなった。このプログラムは、現在、スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアムによって運営され「スポーツの普及と国際的競技レベルの向上」「スポーツの力で世界を変える (平和と開発)」「スポーツ交流を国民的文化に」という指針のもとに事業展開されている。こうした事業の中で、やはり重要な役割を果たすのが指導者の存在である。本学はこのスポーツ・フォー・トゥモロー事業の委託先として、「国際スポーツ人材育成拠点の構築」に関わり、「NSSU Coach Developer Academy」の運営を行っている。

さらに、平成 25 (2013) 年に文部科学省副大臣のもとに設置された「スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議 (タスクフォース)」の報告書には、我が国のスポーツ現場から体罰、暴力を一掃することに加えて、少子高齢化や高度情報化、グローバル化の進展といったスポーツや社会を取り巻く環境の変化に対応するために「新しい時代にふさわしいコーチング及びコーチ」を確立する必要があると提言され、「コーチング推進コンソーシアム」により「モデル・コア・カリキュラム」作成事業が行われている。また本学は、平成 28 (2016) 年に「モデル・コア・カリキュラム」のトライアル (委託事業) 先となっている。

このようにスポーツのコーチ育成、それを裏打ちするコーチング科学の推進は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催も見据えて新しい時代を迎えており、これに十分に対応する実践的教育と研究機関の必要性が求められている。

また、本学では平成 24 (2012) 年に当時の体育・スポーツ界で起こった大きな社会問題に対して、体育・スポーツの指導者を養成する大学として体罰や暴力の問題から決別すべく「反体罰・反暴力宣言」を行った。この宣言のうち本学では、谷釜了正前学長が平成 25 (2013) 年に日本応用心理学会第 80 回大会の記念大会企画シンポジウムの「体罰を考える」において、本学が行っている体罰撲滅に向けての取り組みを紹介するとともに、平成 26 (2014) 年からは以下に示す通り、本学発行の紀要の中に特別寄稿という形で体罰についての調査を実施し、現状把握とともに体罰撲滅のための提案をおこなってきている。

- ・体罰・暴力における体育専攻学生の意識と実態 / 藤田主一他 (44-1) 2014. 9.
- ・日本体育大学における体罰排除教育の効果 / 藤田主一他 (45-1) 2015. 9.
- ・日本体育大学における体罰排除教育の取り組み : 縦断的な視点に基づいて / 谷釜了正他 (45-2) 2016. 3.
- ・日本体育大学における体罰経験の実態と変容 : 学年による比較分析 / 谷釜了正他 (46-1) 2016. 9.
- ・日本体育大学における体罰排除教育の効果 : 卒業年次生の分析 / 谷釜了正他 (46-1) 2016. 9.

このように本学が「反体罰・反暴力宣言」を行い、ここに学ぶ学生たちにこの理念を浸透させるべく、学長ならびに副学長が毎年すべての運動部・同好会の視察に回り、講話などを行うといった取り組みを実施してきた。

さらに平成 28 (2016) 年度からは本学のスポーツ危機管理学研究室が主宰する「学校・部活動における重大事件・事故から学ぶ研修会」が開催され、本学をスポーツ安全指導者の輩出拠点にすべく、過去に起こった事例から学ぶといった試みもスタートした。

反体罰・反暴力という理念の提唱と実際の事例を通して、体罰を排除していくという取り組みは重要なことである。これに加えて実際に学生たちが現場に立って指導に携わったときに役立つ指導の方法や考え方を提供していくことももう一方で重要な課題となる。つまり、科学的な体育・スポーツ指導の理論と方法に裏打ちされた実践力と知識を兼ね備えた人材の育成が必要となってくる。加えて、現在すでに指導を行っている指導者たちにも今までの認識を変化させるような活動が展開できることで、反体罰・反暴力をより推進していくことが可能になるはずである。

資 料 目 次

- 【資料 1】 コーチング学専攻設置に関するアンケート（新専攻の説明）
- 【資料 2】 アンケート質問項目
- 【資料 3】 アンケート集計結果
- 【資料 4】 体育科学専攻博士前期課程入学試験結果平成 23 年度～平成 28 年度
- 【資料 5】 日本体育大学体育学部入試状況
- 【資料 6】 コーチング分野の専攻を持つ研究科の入学者数状況
- 【資料 7】 競合校との学生納付金比較
- 【資料 8】 コーチが果たすべき主な機能と必要とされる知識の概念図
（国際スポーツコーチング枠組みより引用）

コーチング学専攻設置に関するアンケート（新専攻の説明）

現在、日本体育大学ではコーチングを専門に研究する大学院新専攻（前期課程・後期課程）の設置を検討しており、これに関する調査を実施しています。担当教員の説明を聞いた、もしくは下記の説明文をよく読んだ後、質問に対して回答してください。

なお、皆さんから得られた情報については、大学院新専攻の設置にあたっての資料としてのみ使用します。学業成績等には全く影響しませんので、あなたの考えを率直にお答えください。

日本体育大学大学院研究科長
石井 隆憲

説明文

現在、日本体育大学はコーチングを専門に研究する大学院専攻の設置を検討しています。現在も日本体育大学には大学院にコーチング学系がありますが、現在検討している新しい大学院専攻は、現在のコーチング学系を更に発展させ、科学的な根拠に裏付けられたコーチングが可能なグッドコーチを育成することを狙っています。そのため、今年3月に国レベルでまとめられた人間力の高いコーチを育成するためのモデル・コア・カリキュラムの内容も取り入れ、さらには現在日体大で展開しているコーチデベロッパーアカデミーのノウハウを取り入れた、世界的にみても斬新なカリキュラムになる予定です。

大学院は修士課程と博士課程を同時に開設する予定です。修士課程では学部で学んでいるコーチングに関わる基礎的学問をさらに深く学ぶことができると同時に、コーチングの実践力を伸ばすためのアクティビティに取り組むこととなります。この修士課程を修了したコーチは、様々な場面でリーダーシップを発揮し、コーチのコーチとしての役割を果たして、コーチング文化を変革していくことができるようなコーチになることでしょう。博士課程ではコーチデベロッパーとしての能力を更に磨いていくと同時に、コーチング学の発展を牽引していく人材となっていくことが期待されます。したがって、修了後は大学でコーチングを教える立場を目指したり、各競技団体やその他のスポーツ組織等でコーチング部門のリーダーとして組織を牽引していくような立場に立つことが期待されます。

このように、現在設置を検討している大学院コーチング学専攻は、日本のコーチング文化を改善していく原動力になっていくことでしょう。そして、さらにはアジアの、世界のコーチングに大きな影響を与えるようなコーチングの智の拠点となることを目指していきます。

入 学 金：300,000 円（日体大からの入学者は半額）

授 業 料：738,000 円

健康管理費：10,000 円

平成 30 年度開設

世田谷キャンパスにて授業実施

アンケート質問項目

1. あなたの学年を教えてください。

2. アンケートの依頼を受けた授業科目名を教えてください。

3. 依頼を受けた授業の担当教員を教えてください。

4. コーチングを研究する大学院(専攻)修士課程は必要だと思いますか？(1つ選択)

5. 質問4の回答の理由を教えてください。

6. コーチングを研究する大学院(専攻)博士課程は必要だと思いますか。

7. 質問6の回答の理由を教えてください。

8. 条件が整えば、上記の大学院(専攻)修士課程で学んでみたいと思いますか。

9. 質問8の回答の理由を教えてください。

10. 条件が整えば、上記の大学院(専攻)博士課程で学んでみたいと思いますか。

11. 質問 10 の回答の理由を教えてください。

12. 「条件が整えば上記大学院の修士課程もしくは博士課程で学んでみたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した方に質問です。あなたが上記の大学院(専攻)で学ぶとすれば、その目的は何ですか？(複数選択可)

- 修士学位の取得
- 博士学位の取得
- 研究能力や知識の向上
- キャリア形成
- 大学教員や他の院生とのネットワークづくり
- その他(具体的に)

13. あなたが大学院に通う場合、どのような時間帯を希望しますか。(1つ選択)

14. 質問 13 の回答の理由を教えてください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。「完了」ボタンを押して終了してください。

完了

アンケート集計結果

	学年	必要である 又は 思う	やや必要である 又は どちらかと言えば思う	あまり必要ではない 又は どちらかと言えば思わな い	必要ない 又は 思わない	回答者数
修士課程(前期課程)の 必要性	前期課程1年生	7	1			8
	前期課程2年生	7	1			8
	学部3年生	44	25		4	73
	学部4年生	73	17	1		91
	社会人	7				7
	合計	138	44	1	4	187
博士課程(後期課程)の 必要性	前期課程1年生	4	4			8
	前期課程2年生	6	2			8
	学部3年生	35	26	4	8	73
	学部4年生	54	33	3	1	91
	社会人	3	3	1		7
	合計	102	68	8	9	187
条件がと整えば修士課 程(博士前期課程)で学 んでみたいと思うか	前期課程1年生	6	2			8
	前期課程2年生	7	1			8
	学部3年生	13	14	17	29	73
	学部4年生	19	35	15	22	91
	社会人	5		1	1	7
	合計	50	52	33	52	187
条件がと整えば博士課 程(博士後期課程)で学 んでみたいと思うか	前期課程1年生	4	3		1	8
	前期課程2年生	5	2	1		8
	学部3年生	10	11	16	36	73
	学部4年生	18	27	18	28	91
	社会人	4	1	1	1	7
	合計	41	44	36	66	187
学ぶ目的		①修士取得	②博士学位の取得	③能力向上	④キャリア形成	⑤ネットワーク
	前期課程1年生	6	3	6	2	3
	前期課程2年生	4	5	8	4	7
	学部3年生	10	6	24	12	9
	学部4年生	19	16	42	18	12
	社会人	1	3	6	1	1
合計	40	33	86	37	32	
希望時間帯		①平日昼間	②平日夜間	③週末昼間	④週末夜間	
	前期課程1年生	2	4	2		8
	前期課程2年生	4	4			8
	学部3年生	49	13	2	1	65
	学部4年生	67	7	5	4	83
	社会人	1	1	1	4	7
合計	123	29	10	9	171	

※質問項目により無回答者がいるため、回答者人数の合計に変動有り。

体育科学専攻博士前期課程 入学試験結果 平成23年度～平成28年度

※各年度のデータはⅠ期Ⅱ期合計。()は女子内数。倍率は、受験者÷合格者。募集人員はⅠ期Ⅱ期併せて25名。

年度	平成23年度 (コーチング学系募集開始)					平成24年度					平成25年度				
	志願者	受験者	合格者	入学手続者	倍率	志願者	受験者	合格者	入学手続者	倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
スポーツ文化・ 社会科学系	6 (1)	6 (1)	6 (1)	6 (1)	1.0	5 (2)	5 (2)	4 (2)	3 (1)	1.3	10 (1)	10 (1)	8 (1)	8 (1)	1.3
トレーニング科学系	19 (3)	19 (3)	11 (1)	10 (1)	1.7	12 (5)	12 (5)	9 (4)	9 (4)	1.3	11 (3)	11 (3)	7 (2)	6 (2)	1.6
健康科学・ スポーツ医科学系	5 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (0)	1.0	5 (1)	5 (1)	4 (1)	4 (1)	1.3	6 (1)	6 (1)	5 (1)	5 (1)	1.2
コーチング学系	15 (1)	15 (1)	12 (1)	11 (1)	1.3	22 (5)	22 (5)	12 (3)	12 (3)	1.8	21 (7)	20 (7)	17 (6)	17 (6)	1.2
スポーツ教育・ 健康教育学系	14 (6)	14 (6)	10 (5)	10 (5)	1.4	9 (1)	9 (1)	7 (1)	6 (1)	1.3	16 (8)	16 (8)	12 (6)	11 (5)	1.3
合 計	59 (11)	59 (11)	44 (8)	42 (8)	1.3	53 (14)	53 (14)	36 (11)	34 (10)	1.5	64 (20)	63 (20)	49 (16)	47 (15)	1.3
年度	平成26年度					平成27年度					平成28年度				
	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率	志願者	受験者	合格者	入学者	倍率
スポーツ文化・ 社会科学系	4 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0	14 (2)	14 (2)	11 (2)	11 (2)	1.3	4 (1)	4 (1)	1 (0)	1 (0)	4.0
トレーニング科学系	17 (6)	16 (5)	11 (4)	10 (4)	1.5	8 (2)	8 (2)	6 (2)	6 (2)	1.3	19 (3)	19 (3)	14 (1)	14 (1)	1.4
健康科学・ スポーツ医科学系	9 (4)	8 (4)	4 (2)	4 (2)	2.0	9 (4)	9 (4)	5 (2)	5 (2)	1.8	9 (4)	9 (4)	7 (3)	7 (3)	1.3
コーチング学系	28 (7)	28 (7)	23 (6)	20 (6)	1.2	17 (5)	17 (5)	10 (4)	10 (4)	1.7	18 (2)	18 (2)	12 (2)	12 (2)	1.5
スポーツ教育・ 健康教育学系	8 (4)	8 (4)	8 (4)	7 (3)	1.0	7 (3)	7 (3)	6 (2)	6 (2)	1.2	14 (4)	14 (4)	8 (3)	8 (3)	1.8
合 計	66 (22)	64 (21)	50 (17)	45 (16)	1.3	55 (16)	55 (16)	38 (12)	38 (12)	1.4	64 (14)	64 (14)	42 (9)	42 (9)	1.5

日本体育大学体育学部入試状況(過去5年間)

●体育学部

学科	区分	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
体育学科	志願者	2,392	2,989	2,445	2,520	2,660
	合格者	974	798	799	830	949
	入学者	840	762	746	746	818
	入学定員	620	620	620	620	750
	入学定員超過率	1.35	1.23	1.20	1.20	1.09
健康学科	志願者	618	679	652	934	767
	合格者	287	241	245	267	273
	入学者	197	195	197	195	197
	入学定員	160	160	160	160	195
	入学定員超過率	1.23	1.22	1.23	1.22	1.01
武道学科	志願者	207	228	216	222	239
	合格者	154	151	150	156	152
	入学者	146	146	146	147	147
	入学定員	120	120	120	120	120
	入学定員超過率	1.22	1.22	1.22	1.23	1.22
社会体育学科	志願者	850	945	849	1,062	1,067
	合格者	338	282	264	261	254
	入学者	193	193	197	195	196
	入学定員	160	160	160	160	195
	入学定員超過率	1.21	1.21	1.23	1.22	1.01
合計	志願者	4,067	4,841	4,162	4,738	4,733
	合格者	1,753	1,472	1,458	1,514	1,628
	入学者	1,376	1,296	1,286	1,283	1,358
	入学定員	1,060	1,060	1,060	1,060	1,260
	入学定員超過率	1.29	1.22	1.21	1.21	1.07

コーチング分野の専攻を持つ研究科の入学人数状況(HP掲載より)

資料6

都道府 県名	国公私	大学名	研究科等名	専攻名等	定員	平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度		
						志願者	合格者	入学者												
茨城県	国立	筑波大学	人間総合科学	コーチング学専攻 (3年制博士課程)	6 ※5(平成28年度)	13	8	8	13	8	8	14	8	8	12	10	10	11	9	9

競合校との学生納付金比較

大学名	研究科名	前期課程・後期課程	入学金(初年次のみ)	授業料	その他	初年次合計
日本体育大学	体育科学研究科 (体育科学専攻、 <u>コーチング学専攻</u>)	前期課程	<u>300,000</u>	<u>738,000</u>	<u>10,000</u>	<u>1,048,000</u>
		後期課程				
	教育学研究科 (実践教科教育学専攻)	前期課程	300,000	800,000	10,000	1,110,000
		後期課程				
	保健医療学研究科 (保健医療学専攻) ※平成30年度設置予定	前期課程	300,000	800,000	10,000	1,110,000
	早稲田大学	スポーツ科学研究科	前期課程	200,000	926,000	80,000
後期課程			200,000	677,000	80,000	957,000
順天堂大学	スポーツ健康科学研究科	前期課程	200,000	550,000	50,000	800,000
		後期課程				
法政大学	スポーツ健康学研究科	前期課程	140,000	600,000	200,000	940,000
東海大学	体育学研究科	前期課程	300,000	701,000	380,200	1,381,200
大阪体育大学	スポーツ科学研究科	前期課程	200,000	700,000	72,000	972,000
		後期課程				

コーチが果たすべき主な機能と必要とされる知識の概念図
(国際スポーツコーチング枠組みより引用)

